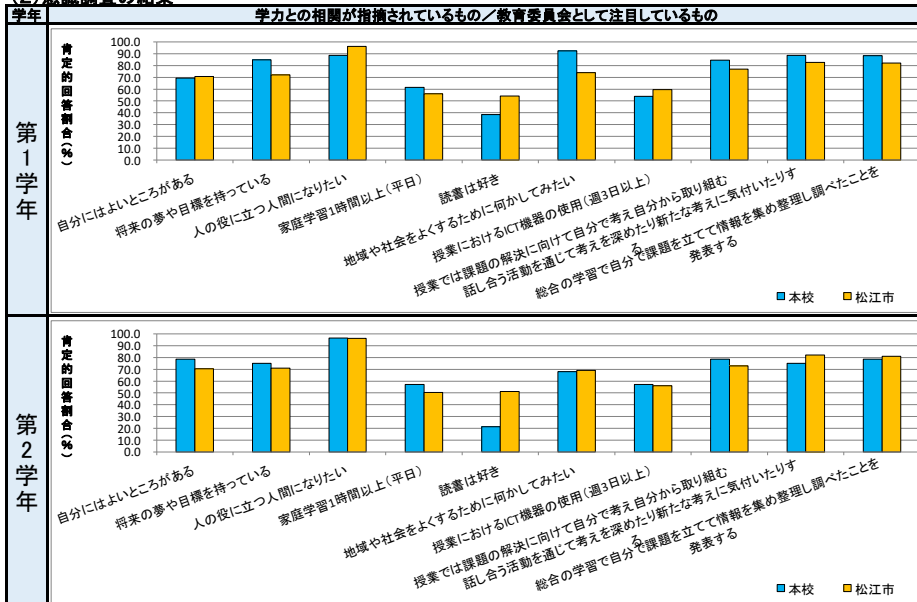


(1)教科調査の結果

| 学年 | 教科 | 分析(成果○/課題●) | 改善策(○) |
|------|----|--|--|
| 第1学年 | 国語 | 成果 ○「スポーツ祭りについての文章を書く」において、目的に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理したり、根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫したりすることにおいて、全校平均を上回っている。 ○「文法・語句に関する事項」について、文節について、また歴史的仮名遣いについての理解が高い。 | ・伝えたいことが明確になるよう、「主張一理由一具体例」などの構成の基本形を明示し、ミニスピーチ等で繰り返し活用させる。 ・聞き取った内容について小グループでの話し合いやクイズ形式の確認活動を行い、内容理解の定着を図る。 ・ミニテスト等を活用し、ことわざ・慣用語・故事成語の意味理解と使用場面の両面から日常的に積み上げる。 |
| | | 課題 ●ことわざについての理解に弱みがある。 ●必要に応じて質問をしながら文章の内容を捉えること(-19.5%)や、書く内容の中心が明確になるように、文章の構成や展開を考えること(-18.5%)など、文章の内容を正しく捉えることに課題がある。 | |
| | 数学 | 成果 ○「数と式」の正の数・負の数、文字式、1次方程式の正答率が市平均を上回った。 ○「関数」の比例反比例の正答率が全国値を上回った。 ○教科全体の正答率は57.7%であり、市平均を上回り、推定全国値とほぼ同等であった。 | ・分数やカッコを含む1次方程式について、途中式を丁寧に書くことを徹底させるとともに、誤答分析を基に、分配法則や通分の誤りなど計算ミスの原因を個別に把握し、補充問題等による反復指導を行う。 ・関数領域では、表・式・グラフを相互に関連付けて扱う演習を計画的に取り入れ、対応関係を視覚的に理解させる活動(座標上での確認、変化の様子の説明等)を通して理解の深化を図る。 ・作図や計算の場面において、手順の意味や根拠を言葉で説明させる活動を取り入れ、「なぜそうなるのか」を説明する数学的な表現力を育成し、操作的理解にとどまらぬ論理的理解の定着を図る。 |
| | | 課題 ●カッコをついた1次方程式(34.6%)や、分数を含む方程式(15.4%)の正答率が著しく低く、計算手順の定着に課題がある。 ●反比例の式に対応するグラフを選ぶ問題が(34.6%)と低く、式とグラフの結び付きの理解が不十分。 ●作図自体ではなく、「作図の手順が角の二等分線であることを説明する」ような、幾何学的な意味の理解(15.4%)が弱点となっている。 | |
| | 英語 | 成果 ○「聞くこと」(内容理解/さまざまな英文の聞き取り)の項目で全国推定値を上回っており、授業での日々の取組(音読やスモールトーク)の成果が表れている。 ○「読むこと」(語形・語法の知識・理解)の代名詞や三単現の否定文の形の項目で全国推定値を上回っており、授業での取組(繰り返し練習や復習)の成果が表れている。 | ・三単現の疑問文や「where」を用いた疑問文について、語順の基本パターン(疑問詞+do/does+主語+動詞…)を明示し、並べ替え問題や口頭練習を通して文構造の定着を図る。 ・対話文読解では、キーワードの把握や必要な情報に線を引き活動、設問根拠を本文中に求める活動を取り入れ、内容を正確に読み取る力を育成する。 ・語彙の定着を図るため、既習語を繰り返し使用する帯活動や小テストを継続的に実施し、語の意味理解と運用力の向上を図る。 ・スモールトークやペア活動において既習表現を使用する場面を意図的に設定するとともに、発表後に相互に推敲する活動を取り入れ、より適切な表現へと修正する力を育成する。 |
| | | 課題 ●「読むこと」(語形・語法の知識・理解)の三単現の疑問文の動詞の形や、(語彙の知識・理解)の内容で対話文の情報を読み取り、その内容を理解することに課題がある。 ●「書くこと」(単語の並べ替えによる英作文)の「where」を使った疑問文では、文の語順を理解し、正確に書くことに課題がある。 | |
| 第2学年 | 国語 | 成果 ○表現の効果に注目して読み取ったり、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫したりすることが県平均を上回った。 | ・相手意識をもって伝える力を育成するため、目的や相手を明確にした言語活動(手紙作成、意見交流等)を計画的に設定し、表現を見直す推敲活動を充実させる。 ・文章読解においては、段落の役割や要旨を捉える活動、「はじめ一中一終わり」など構成を可視化する指導を取り入れ、構成や展開に着目して読む力の向上を図る。 ・歴史的仮名遣いや敬語などの文法・語句事項について、小テストや帯活動、ペアでの確認活動を継続的に実施し、基礎的事項の定着を図る。 ・学習のねらいを単元や授業の導入で明確に示し、振り返り活動と往還させることで、学習に向かう意欲の向上と学習内容の自覚化を促す。 |
| | | 課題 ●相手意識をもって伝えること、文章の構成や展開に注意しながら読むこと。 ●歴史的仮名遣いや敬語についてなど、文法・語句に関する事項に弱みがある。 | |
| | 数学 | 成果 ○「数と式」の1次式と数の乗法を分配法則を使って求める問題と加減法を使って連立方程式を解く問題の正答率が市平均を上回った。 ○「数と式」領域の「式の計算」の平均正答率が60%を越えており、概ね身に付いている。 | ・計算力の定着を図るため、定期的な小テストやペア計算、補充課題に取り組み、基礎的な計算力の維持・向上を図る。 ・関数領域の基礎理解に課題が見られることから、表・式・グラフを相互に関連付けて扱う活動や、変化の様子を言葉で説明する活動を取り入れ、関数の基本的な見方・考え方の定着を図る。 ・新出事項の指導にあたっては、既習内容との関連を明確にした導入や、こまめな確認問題・小テストを実施し、知識・技能の確実な積み上げを図る。 ・思考・判断・表現を伸ばすために、解法の根拠や考え方を説明する記述活動や、複数の解き方を比較検討する場面に授業に位置付け、数学的に表現する力の育成を図る。 |
| | | 課題 ●「関数」領域は全体的に課題があり、基礎基本の問題から課題が残った。 ●思考・判断・表現を問われる問題では領域に関係なく課題が残った。 | |
| | 英語 | 成果 ○「読むこと」(語形・語法の知識・理解)の一般動詞、過去進行形、副詞的活用不定詞を使った対話文の項目で全国推定値を大きく上回っており、授業での日々の取組(会話練習や読み取り練習、小テスト)の成果が表れている。 ○「書くこと」(単語の並べ替えによる英作文)の「have to」や接続詞「that」を使った語順理解の項目で全国推定値を上回っており、授業での取組(反復練習や小テスト)の成果が表れている。 | ・「聞く力」の向上に向け、基礎的な語彙・文法の定着を図るとともに、リスニング活動では、必要な情報に着目して聞き取る練習(キーワードメモ、設問先読み等)を計画的に取り入れ、内容理解の精度を高める。 ・生徒が興味を持つ身近な題材を選び、スモールトークや聞き取り練習を継続することを通して、音声と意味を結び付けて理解する力を育成する。 ・「読む力」については、ポスターやちらし等の短い英文から要点を捉える活動を行い、対話の流れを整理する読み取りや、資料と本文を関連付けて考える課題に段階的に取り組ませることで、必要な情報を的確に把握する力の向上を図る。 |
| | | 課題 ●「聞くこと」(内容理解、対話文の応答、様々な英文の聞き取り)のほぼ全項目において大切な情報を聞き取り、その内容を理解することに課題がある。 ●「読むこと」(さまざまな英文の読み取り)で、対話を読み、対話の流れと資料から問われている内容を理解することに課題がある。 | |

(2)意識調査の結果



<傾向と今後の対策、分析>
 成果○:強み/伸ばしたい点 について
 課題●:弱み/改善を要する点 について

【第1学年】

- 地域や社会をよくしていきたいという意識が市平均を上回っており、協働して課題に取り組もうとする姿勢に強みが見られる。
- 将来の希望の実現に向けて努力しようとする意識が育っている。
- 課題の解決に向け取り組もうとする意識は市平均をやや下回っている。読書が好きと回答した割合が低く、朝読書以外の場面で読書に親しむ態度の育成に課題が見られる。

【第2学年】

- 地域に縁のある講師を多方面から招き、生き方や社会とのつながりについて学ぶ機会を継続したことで、社会参画や課題解決に向けた当事者意識の高まりが見られた。
- 家庭学習時間や学習への主体的な関わりを高めるため、個々の実態や目的に応じて生徒が学習方法を選択し、学んでいるよう支援する。

【R7学力調査受検者数】

| | | |
|------|----|---|
| 第1学年 | 26 | 名 |
| 第2学年 | 28 | 名 |

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示